

次世代型コンビニにおける生産性革命

## 業界初の完全自動セルフレジ機「レジロボ®」とRFID(電子タグ)の 実証実験を開始

「ローソンパナソニック前店」にて

株式会社ローソン(本社:東京都品川区、代表取締役会長CEO:玉塚元一/以下ローソン)とパナソニック株式会社(本社:大阪府門真市、代表取締役社長:津賀一宏/以下パナソニック)は、経済産業省の支援を得て次世代型コンビニエンスストアの実験店舗「ローソンパナソニック前店(大阪府守口市)」において、2016年12月12日より業界初となる完全自動セルフレジ機「レジロボ®」の実証実験を開始します。2017年2月にはRFID(電子タグ)を導入した実証実験を行う予定です。将来的には精算時のスキャン登録を無くしたスピーディな精算でお客様の利便性を向上します。

ローソンは、複雑化する店舗業務の効率化を目指す生産性革命を進めています。今回導入する「レジロボ®」は、お客様ご自身でバーコードをスキャンした商品を専用の「スマートバスケット®」に入れ、バスケットごと専用レジに設置するだけで自動的に精算と袋詰めをするシステムです。店員がレジで商品のスキャン登録や袋詰めをする必要がないため、店舗オペレーションの省力化につながります。今後は、バーコードの代わりに、通信情報のやり取りができる、商品スキャンの必要のない電子タグのRFIDを取り付け、お客様の利便性向上と生産性向上を図ってまいります。

パナソニックは、よりよい暮らし社会の実現に向け、IoTおよびロボティクス技術を駆使して、AIロボティクス家電、店舗での接客や物流・搬送でのソリューションの提供を目指しています。この度、製造業で培った工場での生産性向上のノウハウやメカトロニクス技術およびセンシング技術を活用し、お客様の精算とレジ作業の時間の短縮、およびお客様が使いやすいセルフレジ機「レジロボ®」を開発しました。

2013年よりローソンとパナソニックは、両社で協業する「BLUE PROJECT」を立ち上げ、健康、環境、ICTをテーマに活動してまいりました。ローソンは、パナソニックの技術を活用した温暖化ガスの排出抑制および省エネルギーに効果があるノンフロン(CO<sub>2</sub>冷媒)冷蔵・冷凍システムを約1,600店舗(2016年10月末現在)に積極的に導入するなど、複数の分野で協業しています。両社は今後も生産性革命、生活支援などをテーマにした協業を推進し、小売と技術でお客様の豊かな生活をサポートしてまいります。

なお「レジロボ®」は、経済産業省から補助を受けた「平成28年度ロボット導入実証事業」に採択されています。



完全自動セルフレジ機「レジロボ®」



RFID(電子タグ)対応「レジロボ®」イメージ

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。